

復活の聖なる徹夜祭

使徒書の朗読：ローマ 6・3-11

福音朗読：マタイ 28・1-10

2026.4.4

カトリック高円寺教会 18:30

主任司祭 高木健次神父

皆さん、主のご復活おめでとうございます。

わたしたちは毎年このようにご復活祭をお祝いしておりますけれども、今日また、復活祭の中で、幸いなことにお二人の新しい仲間をお迎えすることができます。

この復活祭は、単に遠い昔にイエス様が復活なさったという出来事に思いを馳せながら、それを体験した今日出てきた婦人たちや弟子たちの驚きや喜びはどうだったかということをおぼろげに思い巡らすというためだけではありません。

むしろ、イエスが復活されたから、昔のマグダラのマリアやペトロたちだけではなくて、どんな時代のどんな者もイエス様と出会い、イエス様の言葉を聞くことができる、イエス様と共に歩むことができる。そのキリスト教の信仰を一番表現しているのがこの復活祭だと言うことができるわけです。

そのイエス様の復活——どんな時代の人も、どんな人もイエス様と出会うことができるんだということ——を信じ、そしてそれを伝えている教会の信仰の中で、今日お二人の方が洗礼をお受けになる、その信仰に加わるということなわけですが、イエス様と共に歩む、イエス様の言葉を聞く、と言葉で言うのは簡単ですが、しかし相手は時代と場所を超えてわたしたちに語られる。わたしたちが日常に出会っている一人の人としてではない。そういう神様との関係に招かれているわけですから、その声を聞くということは、実は、わたしたちが普段の生活の中でしているようではないということを肝に命じておかなければ、そのコミュニケーションのあり方というのは生きている人間同士というか、わたしたちが他の人としているやり方とは違うんだということをいつも意識する必要はあるわけです。

ただ、もちろん、神様との繋がりというのは、わたしたちが神の声を聞く、そういう能力——研ぎまかせて、訓練して行って、神様との対話をすることができる能力——を磨いていくということの中にあるのではなくて、むしろ神様の方が、イエス様の方

がわたしたちに語りかけることができるのだという、神様の力、イエス様の力を信じるということが一番根底にはあるわけなんですけれども、そうであっても、わたしたちはやっぱり頂いた信仰を通して、神様がはっきり語ってくださるというよりは、それを聞き分けていこうとしなければならない面もあるわけです。

わたしたちの心の中には大きく分けて3つの声が、いろんなところから語りかけてくるというわけです。その一番大きな声というのは多分、福音書の直前にローマの教会への手紙が朗読されましたけど、その中でパウロが言っている「古い自分」、罪の中にある自分の声なんです。違う言い方、教会的な言い方をすれば「肉の声」。肉体というよりは肉の声、古い自分の声です。それは、簡単に言えば、今この瞬間の快適さを最優先するように促してくるっていう、そういうことなんじゃないかと思います。いろんなところから響き渡って来る声ですけれども。

もう1つが、もちろん、神様、イエス様の声です。イエス様の声は、平和へとわたしたちを導こうとされる。平和っていうのは、肉の聲が呼びかけている快適さとか心地よさということではなくて、いろんなことが起こって、わたしたちの心がもう本当にぐちゃぐちゃになりそうだけれども、しかしその中で、何が大切で、何を選ぶべきか、あるいは、いろんな出来事の中に翻弄されながらも自分自身は失わないでその人生を生きることができるという意味での心の安定というか、平安、そういう意味での平和に導く。

で、もちろんその神様の声に聞き従おうとするときに、もう1つはそこから引き離そうとする声も強くなって来る。悪霊とか言いますけど。悪霊の声っていうのは、神様の声を聞こうとすればするほど、悪霊の声も強くなるんです。自分の中に悪霊のそういう誘いというか、声っていうものをあんまり感じないと言うならば、それは神様の方に聞き従おうとしてないから、神話的な言い方になりますけど、悪霊にとってはさほど脅威にはならない人物なのでほっといてもいいというわけなんです。でも神に従おうとするならば、そこから離そうとする。

悪霊の声は、簡単に言えば、創世紀の——旧約聖書の一番最初の方に登場する——神様は本当にあなたにそれを望んでいるのかっていう、その疑問です。他の人のようにいいんではないのか。神様は本当にそれを望んでいるのかと問いかけてくる。それが悪霊の声です。わたしたちはそれを見分けていかなければならない。そのための恵

みを願い続けると同時に、でも一番危険なのは、そういう心の中から響いてくる、神とわたしの個人的な対話の中で思い浮かんでくるっていうその思いとか、特別な体験とか、経験の中だけに神の声を聞こうとするということは危険です。

もちろん、神様はいろんな形で語りかけるわけですけど、一番根本的には、聖書のみことば。教会の信仰は、はっきり、聖書を通して神様は人類におっしゃりたいこととおっしゃったんだって信じています。なかんづく——とりわけ——イエス様の生涯。

だから、絶えず聖書に親しむということを通して、知らず知らずのうちにイエス様のコミュニケーションの仕方をわたしたちは教えていただき、そしていろんな体験とか、聖書を通して以外に神様が語ろうとすることを、聖書に基づいて見分けていくことができる。そういう手がかりがすでに与えられているのに、それを見ずして自己流——感情とか心の中で思い巡らすこと——は、いつまでたっても進歩がない、あるいは罠に陥るといふことの危険があるんです。

皆さんも、これは神様の声なのか、それとも自分の考えなのか、疑問に思ったというご経験はあるのではないかと思います。もちろんそれは、どんな場合でも、すぐに分かるということはないけれどもでも、でもその土台として聖書のみことばということとを教会は神のみことばとして信じている。そしてその信仰の中にわたしたちは洗礼を受け、イエス様との関係を始めている。その出発点に戻らなければなりません。色々なその他の周辺的なことに惑わされてはいけないわけです。

わたしたちが教会を通して、そしてわたしたちと関わりを持とうとされるイエス様、もちろんそのイエス様がわたしたちに伝えたいことを伝えることができるんだって、その力に信頼を置くと同時に、その繋がりの中に歩いていくわたしたちの側の思い——決意というか——を、また希望も新たにしつつ、このごミサを通して、お互いの信仰生活のために祈り合いたいと思います。

それでは、これから洗礼の儀に入ります。洗礼志願者は代母と一緒に前に出てください。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>